

クジラ・イルカとの つきあい方小笠原

～自然を守りながら楽しむために～



ハシナギイルカ

英名：Spinner dolphin

学名：Stenella longirostris

体長：2m

特徴：長くちばし（吻）

見られる時期：通年

数十頭から百頭を超える群れで行動します。日中は島の沿岸部でのんびりと休んでおり、夜間は沖合でエサを採っていると考えられています。船の舳先（へさき）にできる波に乗ったり、きりもみジャンプをすることもあるため、船上からのウォッチングで十分楽しむことができます。

【多くの鯨類がくらす小笠原】

小笠原諸島周辺の海では、これまでに 20 種類以上のクジラやイルカの仲間（鯨類）が確認されています。世界中には約 90 種類の鯨類が知られており、小笠原の海はそのうち 4 分の 1 以上の種類が利用する貴重な場所です。

1988 年、小笠原では、冬から春に来遊するザトウクジラを対象とした日本で初めてのホエールウォッチングが行われました。1990 年代以降、島の周りで見られるイルカや沖合に生息するマッコウクジラのウォッチングも始まり、今では、一年中、野生の鯨類を観察するためのエコツアーが盛んに行われています。

ザトウクジラ

英名：Humpback whale

学名：Megaptera novaeangliae

体長：13～14m

特徴：体長の 3 分の 1 にもなる長い胸ビレ

見られる時期：冬～春（ベストシーズン：2月～3月）

小笠原には、交尾・出産・子育てのためにやってきます。跳びはねたり、尾ビレや胸ビレで海面をたたいたりするなど、海面上で派手な行動を見ることがあります。尾ビレ腹面の白黒模様やふちのギザギザの形が個体ごとに異なるため、尾ビレを見ることがして個体識別することができます。

ミナミハンドウイルカ

英名：Indo-Pacific bottlenose dolphin

学名：Tursiops aduncus

体長：2.5m

特徴：成長すると腹部にまだら模様が現れる

見られる時期：通年

単独から時には 30 頭を超える群れを作っています。小笠原群島周辺の沿岸域に定住しており、列島間を移動することもあります。小笠原におけるドルフィンスイムの対象種です。

マッコウクジラ

英名：Sperm whale

学名：Physeter macrocephalus

体長：オス 16m、メス 11m

特徴：大きな四角い頭

見られる時期：通年（ウォッチングは夏～秋が中心）

小笠原諸島周辺の水深 1,000m を超えるような外洋域に、主にメスと子どもからなる繁殖育児集団が一年中生息しています。稀に大きな大人のオスが回遊してきます。噴気（ブロー）は斜め前方に上がります。

English



一般社団法人
小笠原ホエールウォッチング協会

【エコツアーリズムとしての ホエールウォッチング】

エコツアーリズムとは、その地域がもつ自然や歴史、文化などの魅力を旅行者の皆さまに紹介することで、その価値を守り、未来につなげていこうという考え方です。そして、エコツアーに参加される皆さま一人一人にも、自然を大切にす気持ちと責任をもっていただくことによって、より一層、地域の自然を守っていくことができます。野生の鯨類との出会いは、とても楽しく感動的な体験となりますが、ホエールウォッチングやドルフィンウォッチング・スイムを行うことによって、動物たちにストレスを与えたり、彼らの自然な行動を妨げることがないように気をつけなければなりません。そのため、小笠原ではクジラやイルカを観察する際の自主ルールが設けられています。皆さまも彼らのくらしや自主ルールについて知ったうえで、ウォッチングを楽しみましょう。小笠原の海がクジラやイルカたちの楽園であり続けられるように、動物たちや自然環境への配慮にご理解とご協力をお願いします。

【動物たちや自然を守るために】

このガイドブックを通して、皆さまは小笠原の海でくらすクジラやイルカたちのことや彼らを観察する際のルールについて学ぶことができましたと思います。エコツアーに参加される際には、ガイドブックの内容を思い出して、ぜひ動物たちや自然環境に思いやりをもって接してください。それが、小笠原の未来を守ることに繋がります。私たちと一緒に、小笠原の大切な自然を守っていきましょう！

発行年月：2023年6月
イラスト・デザイン：河合晴義
発行：一般社団法人小笠原ホエールウォッチング協会
〒100-2101 東京都小笠原村父島宇東町
TEL 04998-2-3215
<https://www.owa1989.com/>



【ドローン飛行ガイドライン】

ドローンにより鯨類に接近する場合は、その接近角度に拘わらず、対象鯨より30m以内に接近してはならないこととし、以下のルールに則る。

- ・他船がウォッチングしている群れおよびウォッチング中の他船の上空を飛行させない。
- ・対象鯨の進行方向からは接近しない。
- ・ドローンの接近により対象鯨およびその周辺の野生動物の行動に変化が見られた場合は、飛行を中止する。



全文は右のQRコードからご覧いただけます。



30m
以内 接近禁止

【ドルフィンウォッチング・スイム 自主ルール】

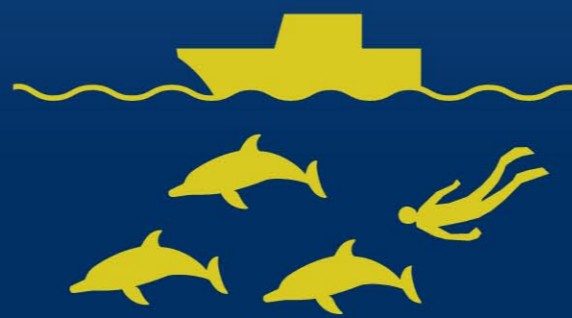
ひとつの群れにアプローチできる船は、船の大小を問わず4隻までとする。(ウォッチングのみの場合も含まれる)



イルカへのアプローチは
ひとつの群れにつき **4隻** まで

※小笠原村観光協会制定

ひとつの群れに対する水中へのエントリー回数を、1隻につき5回以下とする。
(ただし、必ずしも5回OKというものではなく、その時のイルカの状況や他船への配慮を考慮すること)



水中へのエントリーは
ひとつの群れにつき **5回** まで

【ホエールウォッチング自主ルール】

20t未満の船舶の場合
(ヨット、カヌー、カヤック、SUP等の無動力船も含む)

適用鯨種：ザトウクジラなどのヒゲクジラ亜目全種とマッコウクジラ

適用海域：小笠原諸島の沿岸20マイル以内

- ・クジラから300m以内は減速水域
- ・クジラから100m以内は侵入禁止水域
(マッコウクジラについては50m)
- ・減速水域ではクジラの進行方向に侵入しない。
- ・クジラの行動を妨げる操船をしない。
- ・クジラの方から100m以内に接近してきた場合は、低速で離れるか停船状態とし、侵入禁止水域から脱するまでこの行動をとる。



学術研究・取材のため、自主ルールを超えた範囲での観察許可を得ている船舶は、赤色の特例旗を掲げています。

小笠原ホエールウォッチング協会加盟船は
右のQRコードからご覧いただけます。



全文は右のQRコードからご覧いただけます。